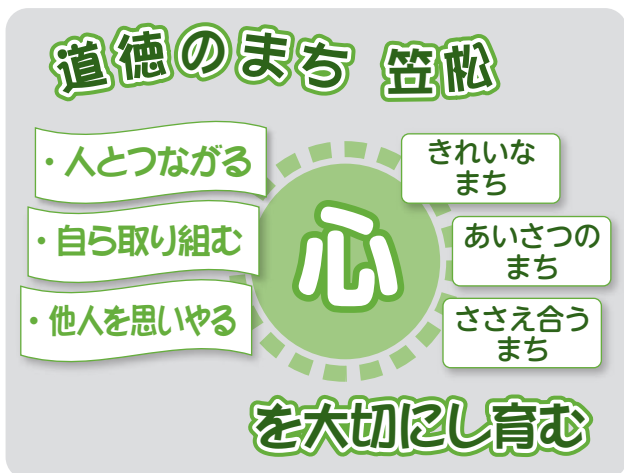


第3回「道德のまち笠松」のつどい開催

『志の民たれ!笠松人』角田識之氏、熱く語る

— 道德心をもってすれば志民、利己心をもってすれば私民 —



「道德のまち笠松」のつどいが2月5日、笠松中央公民館で開催されました。

最初に、道德のまち笠松推進会議から大切にしたい三つの心「人とつながる心」「自ら取り組む心」「他人を思いやる心」を育む取り組みについて報告がありました。「きれいなまち部会」は、競馬場周辺のゴミ拾い、住民と行政が心をひとつにして取り組んだトンボ池西河川敷の不法投棄ゴミ撤去による心の育みについて、「あいさつのまち部会」は、心をつなぐあいさつを広めるための「リーフレット」や「絵本」づくり、中学生による地域あいさつ運動に

よる心の育みについて、「ささえ合うまち部会」は、ボランティア情報交流による心の育みについてそれぞれ活動報告をしました。

続いて、経営コンサルタント会社の社長として活躍されている角田識之^{すみのりゆき}氏の講演がありました。その中で、日本は危機に直面していると感じられ、これを乗り越えるには、松下村塾のような「志」をもち行動する人の育成が大切だと考え、理念と志による経営アドバイスに努める一方、将来を担う子どもたちに「志」をもち行動する心を育む志授業を提唱されました。また、「道德のまち笠松」の、心を大切にしたい取り組みを地域・行政・学校がひとつになって進め、志をもつ子どもたちが自らの人生を切り拓き、この町や国を作り上げていく人に育って欲しいと語られました。



スライドを使い取り組みを説明する委員



熱く語る 角田識之氏

講演の最後に「私は私にできることをやるの」と前向きに生きようとするハチドリの話、「国が何をしてくれるかではなく、自分が国のために何ができるか」と述べたアメリカ大統領ケネディーの言葉を引用し、当町の道德のまち笠松への取り組みを強く激励していただきました。

つどいに参加した方は、「心のあり方を考えることはすばらしい」「平素の取り組みを大切にしたい」「自分に今できることを考えたい」「自分の志を見つめ直してみたい」など、『志の民!笠松人』への思いを新たにしました。